（様式１）

資料２

バリアフリーの街づくり取組み推進状況モニタリング現地確認結果報告書

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 対象事例名 | | 心のバリアフリー教室 |
| 対象団体名 | | 茅ヶ崎市（茅ヶ崎市立鶴嶺小学校） |
| 現地確認日時 | | （交流教室①）　2023年 ９月14日（木）13:25～15:00  （交流教室②）　2023年10月19日（木）11:35～12:20  （市民部会教室）2023年11月16日（木）11:35～12:20 |
| モニタリング  グループ | | 〔リーダー名〕－ |
| 〔メンバー名〕猿渡達明・関根千佳・吉富多美・和久井真糸 |
| 検　　証　　項　　目 | | |
| 先進性 | ・市と学校、バス事業者等が単独ではなく協働で取り組む効果を実感した。  ・聞き、話し、体験する学びを通して、子どもたちの中にバリアフリーの気づきがしっかりと根付いていったように見えた。こうした取り組みが他の市町村にも広がれば、誰もが住みやすい街づくりへとつながっていくように思う。  ・プロジェクトの取り組みとして評価できる（単回でなく、複数回で、それなりの時間をとって行っている点。国交省の参入、授業参観で扱ったこと。）  ・見えにくい障害を、何とか子どもたちにわかってもらおうとしている点。  ・見えない障害に対しての理解は良かったが、地域との連携をとって、作るところから関わりをもってもらうとなお良い。  ・教育委員会と国交省、学校と文科省との縦割りではなく「横のつながり」を大切にしてほしい。 | |
| 共感性 | ・最初は遠慮がちだった小学生たちが、車イス乗車やバス乗降時の不便などを体験し、障害当事者との対話をくり返すうちに理解を深めていく様子が興味深かった。相手を理解しようとする姿勢が見て取れた。  ・ワークが多く取り入れられ、楽しみながら、ちゃんと授業を受けていることを見て、子供に新たな気付きを与えられたのではないか思う。（最終回は人数が多かったこと、声が小さかったことで後ろの子は聞きづらそうだった。）  ・茅ヶ崎インクルーシブの皆さんの熱意に共感した。  ・もう少し、かわいそうではなく、あたりまえにいる事を理解でなく自分事として考えていけるようにして欲しい。もっと地域の人とコミュニケーションをとって欲しい。 | |
| 当事者の視点・当事者参加と県民ニーズの反映度 | ・障害当事者が参加することで、子どもたちの考えが変わっていくように感じられた。何が不便なのか、どうしたら改善できるのか。相手の目線に合わせて考えを深めていく様子はとても興味深かった。他の場面でも相手の感じるバリアを想像し、サポートしてくれるのではないかと頼もしく思えた。  ・「障害」を使わず、自分とは違う人がいることを認め合う、多様性を学ぶのはとても良かった。  ・取組は実施校が増えた点を見ても利用者から評価支持されていると感じる。  ・茅ヶ崎インクルーシブの皆さんは、親の会であると同時に当事者でもあると思われ、当事者参加の事例として良い。今後、より多くの発達障害の児童が増えることを考えると、県民ニーズに即した内容である。  ・プログラムで車イス以外の授業が見れていなかったのと最終日が３階だったので私は市役所になったが、学校にエスカルなどがあり３階まで上がれれば見たかった。でも、小学校でのバリアフリー教室をみて子ども達が積極的に質問していたのは良かった。  ・自分ならどうするをもっと考えて欲しい。 | |
| 波及効果 | ・自分の世界だけの狭い価値観で物事を判断するのではなく、他者への理解を深め、尊重する気持ちが育っていくプログラムになっていると思った。定着していけば差別や偏見のバリアも減少し、いじめを止める効果もあるのでは。  ・子供から家庭内（親）へ、市内の他の学校への広がり。そして県内の学校に広がることを期待する。  ・職員、児童への研修であるが、昨年は参観日にこの授業を行ったということで、家族への波及効果もあると思われる。  ・学校から５校、７校でもいいので広報やXを使って知ってもらい家族や地域で共有することが大事。 | |
| その他 | ・進行役に市の職員の方が入っているのも効果的だと思えた。  ・教育委員会や文科省が入ってないのに、国交省が入っているのがなんとも面白い。今後は教育委員会や文科省も入り、しっかり授業のカリキュラムに入れられるといい。色々な立場の人を巻き込み、高みを目指してほしい。（横のつながり）  ・最大4校ということだが、今年も5校から申し込みがあったとのことなので、最終的には19校すべてで開講されることが望ましい。  ・神奈川県の県民会議がつくった冊子を配布して欲しい。 | |
| 所見 | ・わずかな時間での参観だったが多くの気づきを得られた。小学生たちの吸収力に驚き、未来への希望を持てた時間だった。多様性への共感と理解を日常に落とし込むためにはくり返すことが大切だと思う。今後もぜひ継続を。  ・とてもいい取り組みで、子供たちが楽しそうに授業を受けていたのが良い印象に残った。内容について、今後、社会モデルそして人権モデルへとステップアップを期待する。  ・市民部会教室では、元気な児童が70名も集まると声が後ろまで届かず、また毎回手を挙げる児童が前の方に集まっていたせいもあり、後ろの児童は途中から少し疲れてきたようだった。グループワークを入れるなど、全体をもう少し参加型にすると、納得感が出ると思われる。内容的には、県民会議で作成しているリーフレットのカンナちゃんの事例のように、より自分事として考えられるものにするほうがいいかもしれない。 | |